

第4章 現況解析と計画に向けての課題

第1節 解析の視点	70
第2節 4系統別の解析・評価	72
1 環境保全系統	72
2 レクリエーション系統	74
3 防災系統	77
4 景観系統	79
第3節 計画に向けての課題	81
1 緑の系統別課題整理	81
2 都市づくりの観点から見た緑の課題整理	83
3 見直しへのアプローチ	84

第1節 解析の視点

緑にかかわる現況調査などを踏まえて、萩市の緑の特性に関して、解析及び評価を行います。

なお、解析・評価の視点としては、緑の有する様々な役割・機能に配慮し、「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」、「景観」の4つの系統に分けています。

各系統の解析・評価の視点は以下のとおりです。

①環境保全系統の解析・評価

<骨格となる緑>

全市的な緑の分布状況から見て、そのボリュームや質は、市を代表する緑であるとともに、環境保全に効果が発揮される緑。

<地域の個性ある緑の形成>

萩市の誇るべき史跡、名勝、社寺林等の優れた緑地など、緑のオープンスペースに、地域の個性ある緑として地域に自生する樹種の活用。

<自然との共生>

学術上価値の高い野生動植物等の生息地等を形成するなど、生物多様性の保全や自然との共生の視点から重要性が高いと判断される緑。

②レクリエーション系統の解析・評価

<身近なレクリエーション>

日常的な生活において、気軽に利用できる身近な公園・緑地として効果が発揮されるもの。

<広域レクリエーション>

週末のレジャー・レクリエーションなど、広域的に利用され、憩い・やすらぎの場として効果が発揮されるもの。

<ネットワーク>

レジャー・レクリエーションの場として、緑のまとまりが隣接あるいは接近するなど、公園や緑地の配置上、体系的なつながりを持って認識されるべきもの。

③ 防災システムの解析・評価

<避難体系>

地域防災計画において位置づけられた避難場所として、災害発生の際に効果が期待されるもの。

<災害に強い都市構造の形成>

都市公園や防災遮断帯緑地、河川緑地、緑化された幹線道路などの延焼遮断空間を形成するもの。

<多様な災害復旧活動拠点の確保>

救助・救援活動の拠点、救護・復旧物資の集配・備蓄、ヘリコプターの離着陸など、災害復旧活動の拠点、被災者の一時的な生活拠点となるようなもの。

④ 景観システムの解析・評価

<市街地の背景を構成>

市街地の周囲に展開し、遠景としてもたらされる、都市の背景的な緑として効果を発揮するもの。

<ランドマーク・地域内修景>

規模の大小を問わず、地域にとっての良好な景観を演出する緑の要素。ランドマークとして人々の心に印象づけられる緑の拠点。また、地域コミュニティ単位において、地域ならではの景観づくりに効果を発揮する緑の機能。

<視点・眺望>

良好な景観を仰ぐことができる視点場、又はそこからの優れた眺望を含め、効果を発揮する緑の機能。

1 環境保全系統

《機能の定義》

地球環境問題への関心の高まりのなかで、快適で潤いのある都市環境の創造、貴重な動植物の生息生育空間の保全、都市気候の緩和など、自然との共生や生物多様性の保全、環境への負荷の低減に資するような主として存在を重視した機能です。

《分析の主旨》

萩市の都市環境を保全していくために必要な緑の資源について解析・評価を行います。

萩市の緑は、阿武川、橋本川、松本川、田万川などの河川とその河川沿いの緑によってその骨格が形成されているほか、海岸、山地、農地の緑が環境保全に大きな役割を果たしています。

特に、自然公園内の森林や国有林、保安林などの海岸や山地の緑は、優れた自然環境を有しており、中でも、農地の緑は、地域住民の生活・憩いの場や生産の場として貴重な財産であるとともに、生物多様性を維持していくための生物の活動の場でもあります。

一方、市内に点在する多くの史跡・名勝・天然記念物等と一体になった緑は、地域個性を形成する拠点的な緑地となっています。

また、伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区、その他重点景観計画区域等に残された緑は、特色ある歴史的風土を形成しており、市街地に残る貴重な自然の緑として、今後の保全・整備が望まれます。

都市公園などは、規模の大小やその機能により、環境保全の形態にも違いを見せています。

特に指月公園は、面積約30haと非常に大規模で、市街地内のまとまりのある緑地空間となっており、全市的な環境保全に大きな影響を与えるものです。

市街地の中心部に位置する中央公園は、都市の開放感を生み出すオープンスペースとして環境保全効果を発揮しています。

その他、市内各所に整備されている街区公園や児童遊園、公共施設緑地などは、市街地における生活環境のなかできめ細かいオープンスペースを提供し、都市環境保全効果を発揮しています。

更に、植物生態学上も貴重な植生である指月山の森や笠山の自然植生や椿群生林など、天然記念物に指定されている貴重な植物や保存樹木等の緑も多く残されており、自然との共生の観点から重要な緑となっています。



▲笠山

表 環境保全システムの解析・評価

緑の機能系統	機能の定義	評価の視点	該当する緑地
	地球環境問題への関心の高まりの中で、快適で潤いのある都市環境の創造、貴重な動植物の生息生育空間の保全、都市気候の緩和など、自然との共生や生物多様性の保全、環境への負荷の低減に資するような主として存在を重視した機能。	①骨格となる緑 都市の骨格を形成している緑地	・阿武川、橋本川、松本川、田万川 ・海岸、山地、農地
		②地域の個性を形成 優れた歴史風土を有している緑地 地勢条件などにより地域の個性として活用される緑地	・史跡、名勝、天然記念物と一体になった緑 ・社寺林 ・伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区、その他重点景観計画区域等の緑
		③自然との共生 貴重な動植物など、優れた自然を保全するための緑地	・天然記念物に指定されている貴重な緑 ・保存樹木等 ・北長門海岸国定公園 ・長門峡県立自然公園

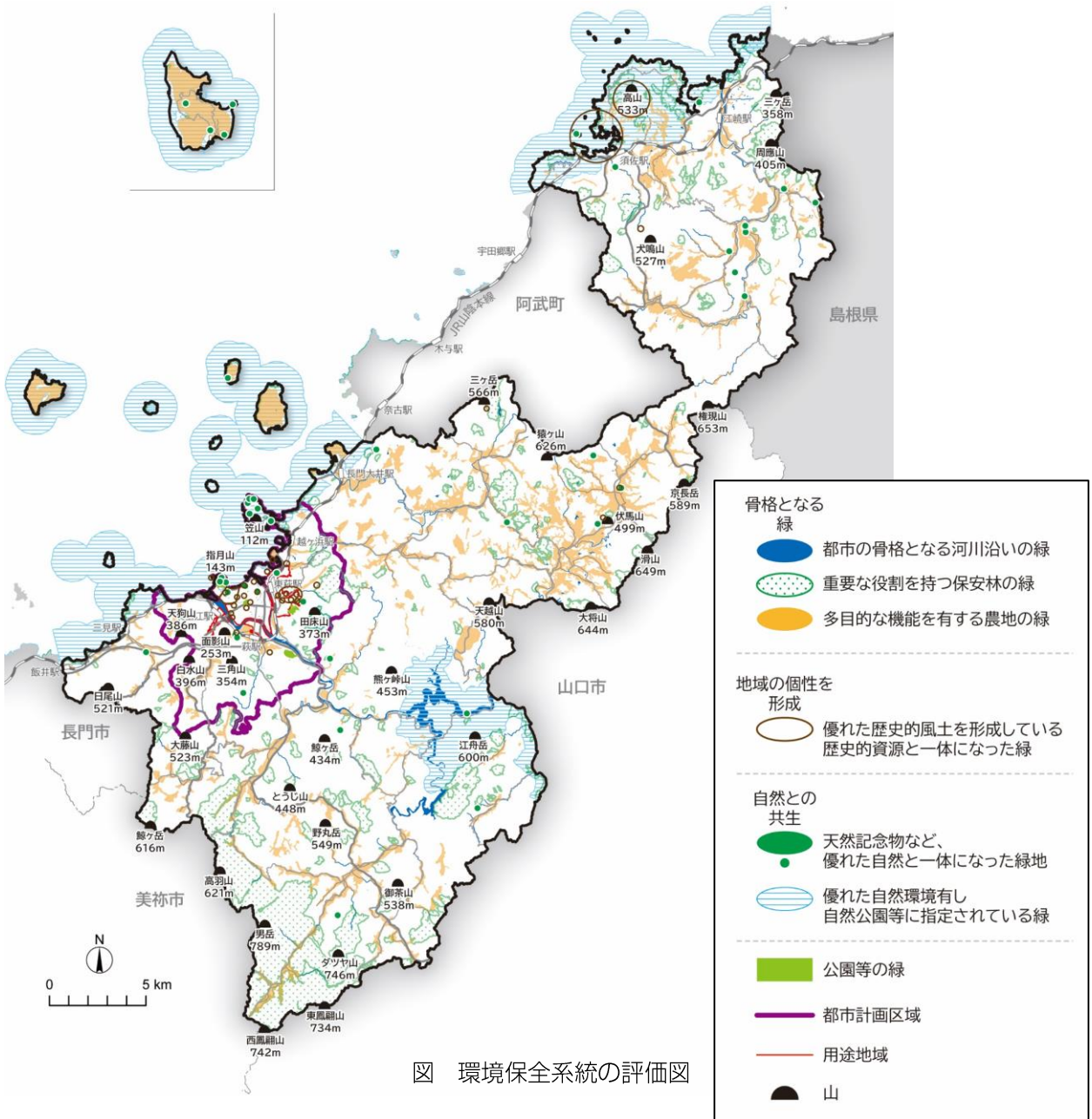


図 環境保全システムの評価図

2 レクリエーション系統

《機能の定義》

多様化するレクリエーション需要に応え、主として、身近で広域的なレクリエーション活動に対処し得るような利用形態を重視した機能です。

《分析の主旨》

市民をはじめとする人々のレクリエーション環境としての緑について、解析・評価を行います。

増大かつ多様化する市民ニーズに応えるべく、様々な緑がその役割を發揮しています。

市民が気軽に訪れ、日常的に利用できるレクリエーション環境としては、身近な地域に街区公園や児童遊園、農村公園、史跡周辺の緑地・広場、小規模な公共施設緑地などがあります。

これらの緑地は、生活環境の中に溶け込み、いつでも、だれでも利用できるこうしたオープンスペースが、楽しさややすらぎ感などの効果をもたらしていますが、市街地内の街区公園の多くは未開設の状況となっています。

また、教育施設のグラウンドも、レクリエーションの場として重要な緑地です。

居住環境を中心とした日常からしばし離れ、週末などに家族や仲間と楽しく過ごすことができるような、広域的なレクリエーション要素を持った緑としては、指月公園、中央公園、陶芸の村公園、萩ウェルネスパークなどの大規模公園のほか、萩往還梅林園、田床山いこいの広場、農山村地域のグラウンド・キャンプ場等が挙げられます。

レクリエーションの場として、点的な限られた場所ばかりでなく、線や面として広がりのある環境を形成する要素としては、河添河川公園・白上河川公園などの河川緑地や、橋本川・松本川沿いに整備された河道、田床山・笠山のハイキングコース等が、带状に広がったレクリエーション軸として大きな役割を果たしています。

阿武川・橋本川・松本川等の大規模河川や、緑化された道路などは、公園などの点的な緑地をつなぐ機能があり、緑と水のネットワークを形成する重要な緑地として位置づけられます。

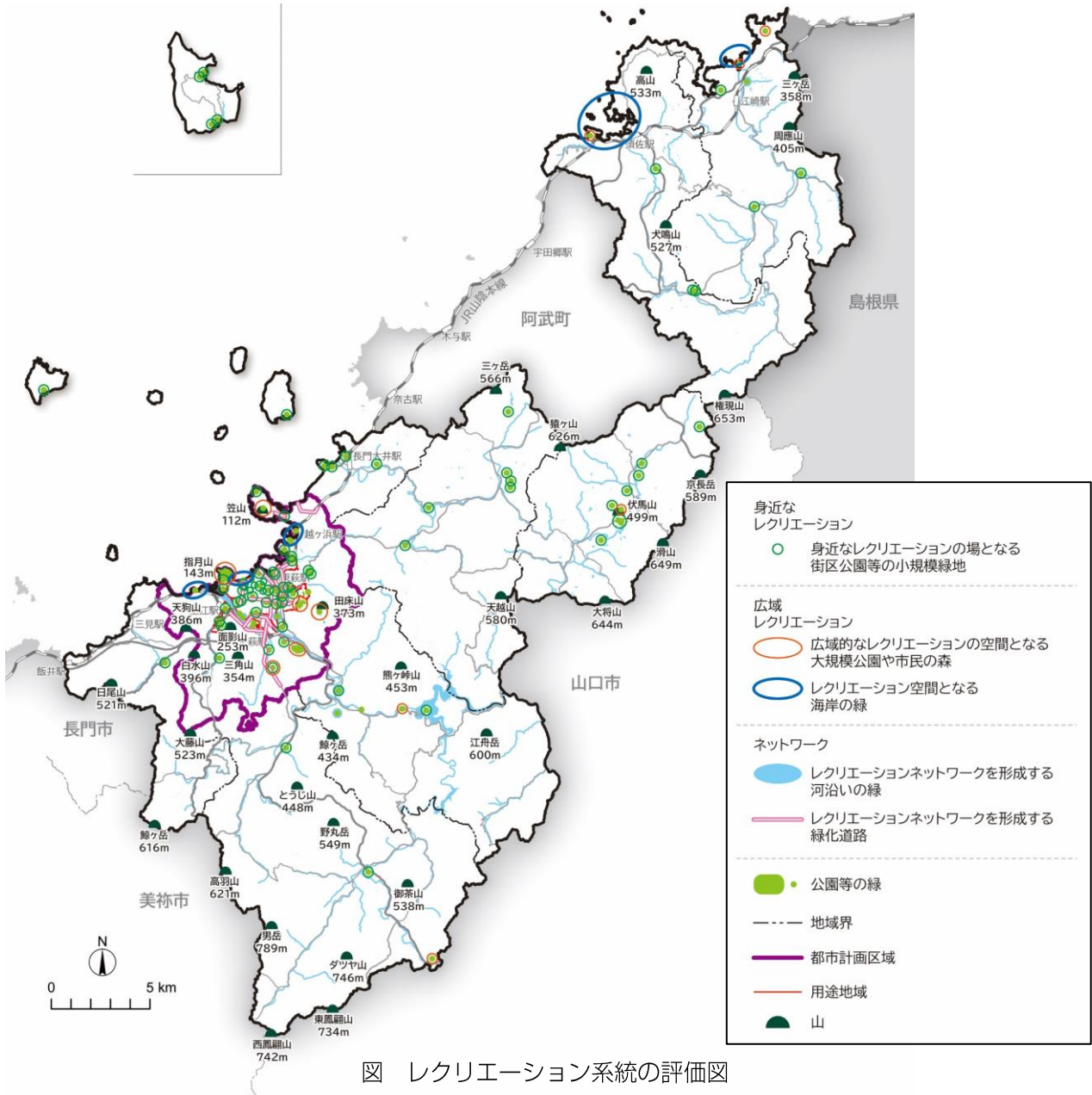
また、身近なレクリエーション空間の充足度を検証するため、街区公園、児童遊園の誘致圏（街区公園の誘致距離250mを準用）について見てみると、用途地域内において、一部地域が誘致圏域から外れており、これらの地区において、身近なレクリエーション空間が不足していることが分かります。



▲中央公園

表 レクリエーションシステムの解析・評価

緑の機能系統	機能の定義	評価の視点	該当する緑地
	多様化するレクリエーション需要に応え、日常の、及び全市的なレクリエーション活動に対処し得るような主として利用を重視した機能。	①身近なレクリエーション 徒歩圏域におけるレクリエーションの場となっている緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域にある公園（街区公園、近隣公園、地区公園など） ・公共施設緑地、教育施設のグラウンド ・児童遊園、農村公園 ・史跡周辺の緑地・広場等
		②広域レクリエーション 週末のレジャーやレクリエーションなどの場となっている緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・指月公園、中央公園、陶芸の村公園 ・萩ウェルネスパーク ・萩往還梅林園 ・田床山いこいの広場 ・農山村地域のグラウンド、キャンプ場
		③ネットワーク レジャー・レクリエーションの場として、緑のまとまりが相互に融合あるいは近接する緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・河添河川公園、白上河川公園等の河川沿いの緑地 ・橋本川、松本川沿いの河道 ・田床山、笠山のハイキングコース、萩往還等 ・緑化された道路



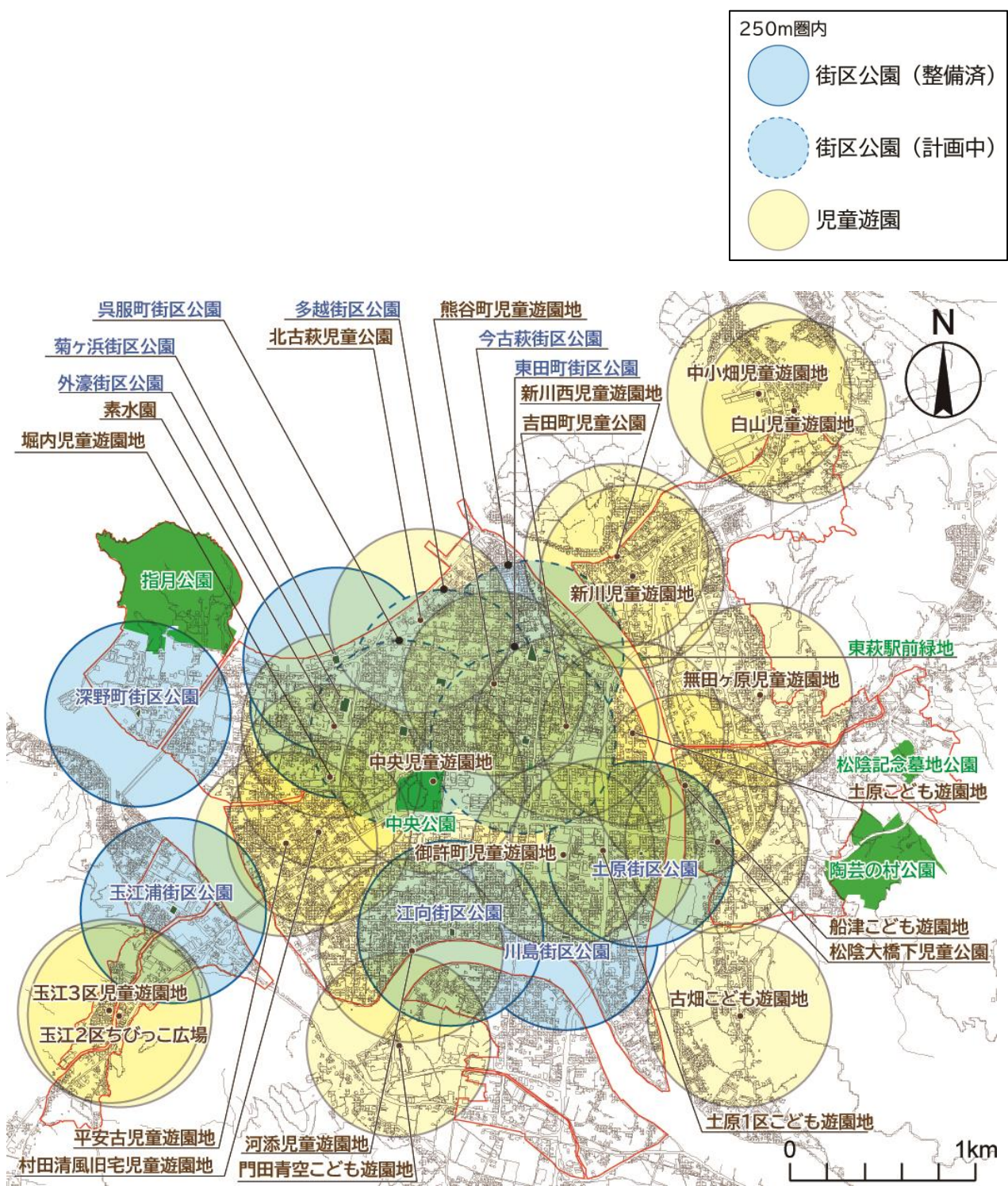


図 街区公園・児童遊園の誘致圏

3 防災系統

《機能の定義》

災害の防止あるいは災害時における避難路、避難地の形成、災害に強い都市構造の形成や多様な防災活動拠点の確保等の役割を果たす機能です。

《分析の主旨》

安全・安心な都市環境づくりに不可欠な、防災環境面から萩市の緑の持つ機能の解析・評価を行います。

地震や水害、地すべりなど、都市が被る様々な災害の危険性を低減し、災害に強い都市構造を形成するとともに、災害時の避難路・避難地や防災活動拠点として、緑は大きな役割を果たしています。

都市公園や公共施設緑地は、火災の延焼防止など、被災の拡大を防止するオープンスペースとしての役割を有しており、密集度の高い市街地における効果は大きいものです。

都市公園のうち、指月公園や中央公園、陶芸の村公園、萩ウェルネスパーク等の規模の大きいものは、備蓄倉庫や貯水槽、仮設住宅などの設置も可能であり、災害時の活動拠点として効果を発揮します。

一方、地域防災計画における避難場所としては、教育施設のグラウンド、コミュニティセンター、公民館等が位置付けられており、街区公園等の小規模な都市公園と連携しながら、災害時の避難地として、また、救援活動の場所として機能する重要な緑です。

火災時の延焼遮断帯となり、騒音や大気汚染、木造密集市街地などの都市火災を防ぐ緑として評価が高い緑は、街路樹のある道路（防火帯、道路騒音の緩和）、市街地内を流れる阿武川、橋本川、松本川等の河川（防火帯、防火用水）、公共施設のオープンスペースや寺社境内地などが挙げられます。



▲東萩駅松本線

表 防災システムの解析・評価

緑の機能系統	機能の定義	評価の視点	該当する緑地
	災害の防止あるいは災害時における避難路、避難地、都市公害に対する緩衝地帯としての役割を果たす機能。	①避難体系 避難場所や避難路としての機能を持っている緑地	・小中学校、コミュニティセンター、公民館など地域防災計画において避難場所として指定されている場所 ・緑化された道路（避難路）
		②災害に強い都市構造の形成 延焼遮断空間等、防災上効果の高い緑地 砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域等の災害危険区域周辺の緑地	・阿武川、橋本川、松本川等の河川沿いの緑地 ・緑化された道路（防火帯）
		③災害活動拠点の確保 多様な災害活動の拠点となることが可能な緑地	・指月公園、中央公園、陶芸の村公園 ・萩ウェルネスパーク ・小中学校の校庭や公共グラウンド、山村広場など

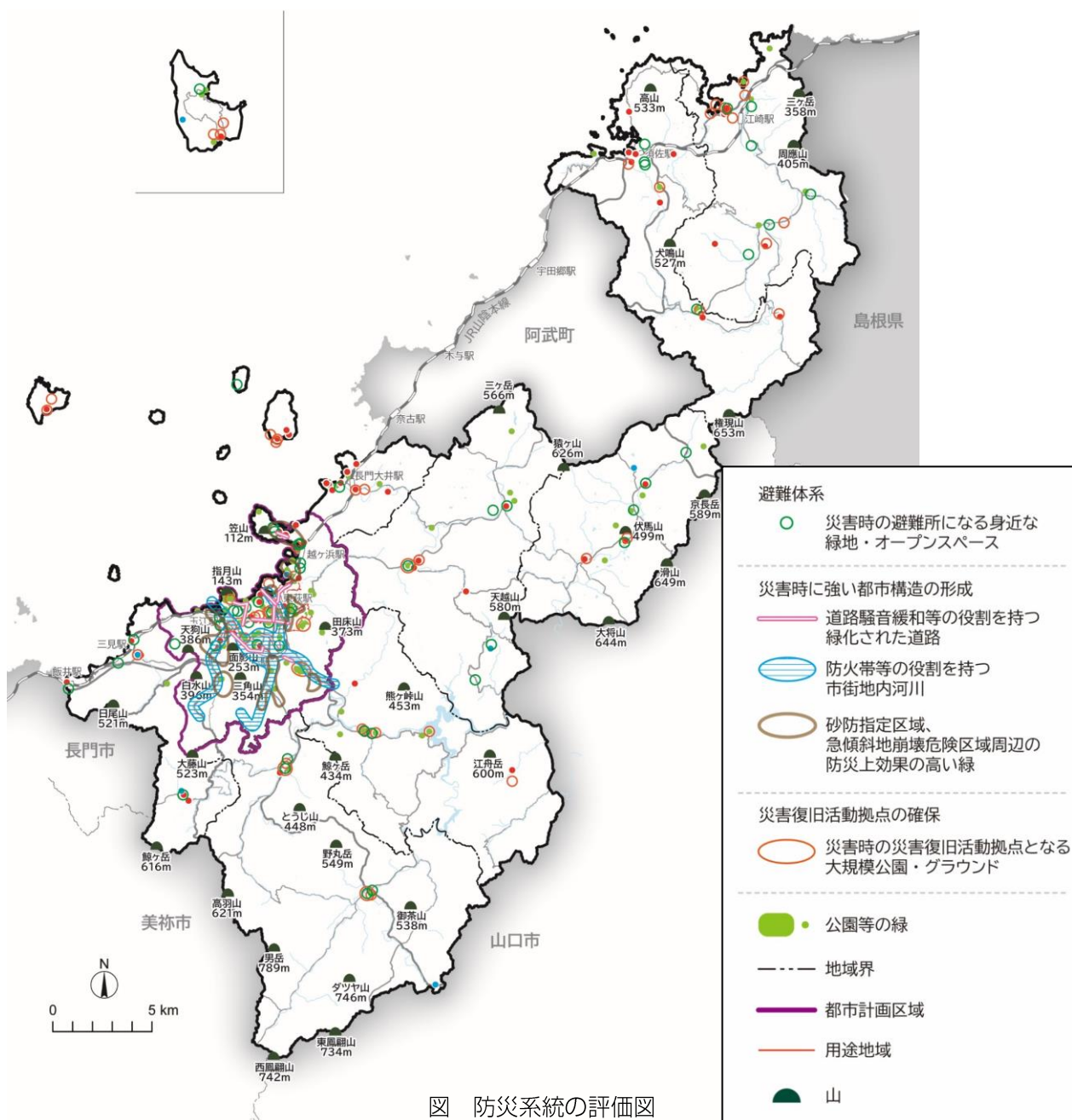


図 防災システムの評価図

4 景観系統

《機能の定義》

市街地を取り囲み、その背景となる緑地、市街地内の社寺林などの郷土を形づくる緑地、市街地内のランドマーク・シンボルとなるような緑地など、特色あるまちづくりに資するような主として都市景観を重視した機能です。

《分析の主旨》

都市のイメージ形成に関わる景観的な要素について、萩市の緑の持つ機能の解析・評価を行います。

緑が与える視覚的な効果は、萩市のまちづくりにおいて重要な要素となっています。

市街地から望まれる周囲の山並みの豊かな緑や田園風景を創出する農地の緑は、市における貴重な景観資源と呼ぶべき対象であり、奥行きのある豊かな景観形成に寄与しています。

特に、指月山（143m）は麓に萩城跡を控え、海に形良く張り出しており、市街地の各所から眺望できる市民の心象的シンボルとなっています。

また、鶴江台や小さな火山として知られる笠山（112m）も豊かな緑の固まりとして萩市の特徴となっています。

変化に富んだ海岸線の景観は、北長門海岸国定公園に指定され、海に関わりある萩市の豊かな自然資源の一つとなっており、表情豊かな景観をつくりだしています。

また、阿武川とその下流域で分流し三角州を形成する橋本川や松本川をはじめとする市内を流れる様々な河川は、市民生活に潤いを与えるとともに山並みの豊かな緑と調和して美しい河川景観を形成しています。

一方、市街地の形成に長い歴史を持つ萩市には、数多くの歴史的遺産と一体になった緑地が残されています。

国指定の史跡や重要伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区は、歴史的まちなみとして大切に保存されており、土塀や夏みかん畑が随所に残され、萩市らしい景観を作り出しています。

市域に点在する社寺林や史跡・名勝・天然記念物等と一体になった緑は、地域に根ざしたスポットとしての役割を果たしており、地域の歴史や風土を感じさせる良好な景観を呈しています。

街区公園や公共施設緑地は、地域コミュニティレベルでの修景効果を発揮し、特に、地域の顔ともなる駅前広場や道路沿いの緑は、市民のみならず、街を訪れる人々に対する潤い空間を提供しています。



▲堀内伝建地区

表 景観系統の解析・評価

緑の機能系統	機能の定義	評価の視点	該当する緑地
	市街地を取り囲み、その背景となる緑地、市街地内の社寺林などの郷土の風景を形づくる緑地、市街地内のランドマーク・シンボルとなるような緑地など、特色あるまちづくりに資するような主として都市景観を重視した機能。	①市街地の背景を構成 市街地の周辺に展開する都市の背景的な緑地	・市街地周辺を取り囲む山地、農地 ・阿武川、橋本川、松本川等の河川の緑 ・北長門海岸国定公園
		②ランドマーク・地域内修景 ランドマークとなる緑地。地区を代表する郷土の風景を支えている緑地	・指月山、鶴江台 ・史跡、名勝、天然記念物と一体になった緑 ・社寺林 ・伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区内の緑 ・菊ヶ浜等の海岸線の緑 ・伏馬山山麓のひまわり
		③視点・眺望 優れた眺望となっている緑地	・田床山、笠山 ・平蔵台、羽賀台等の台地

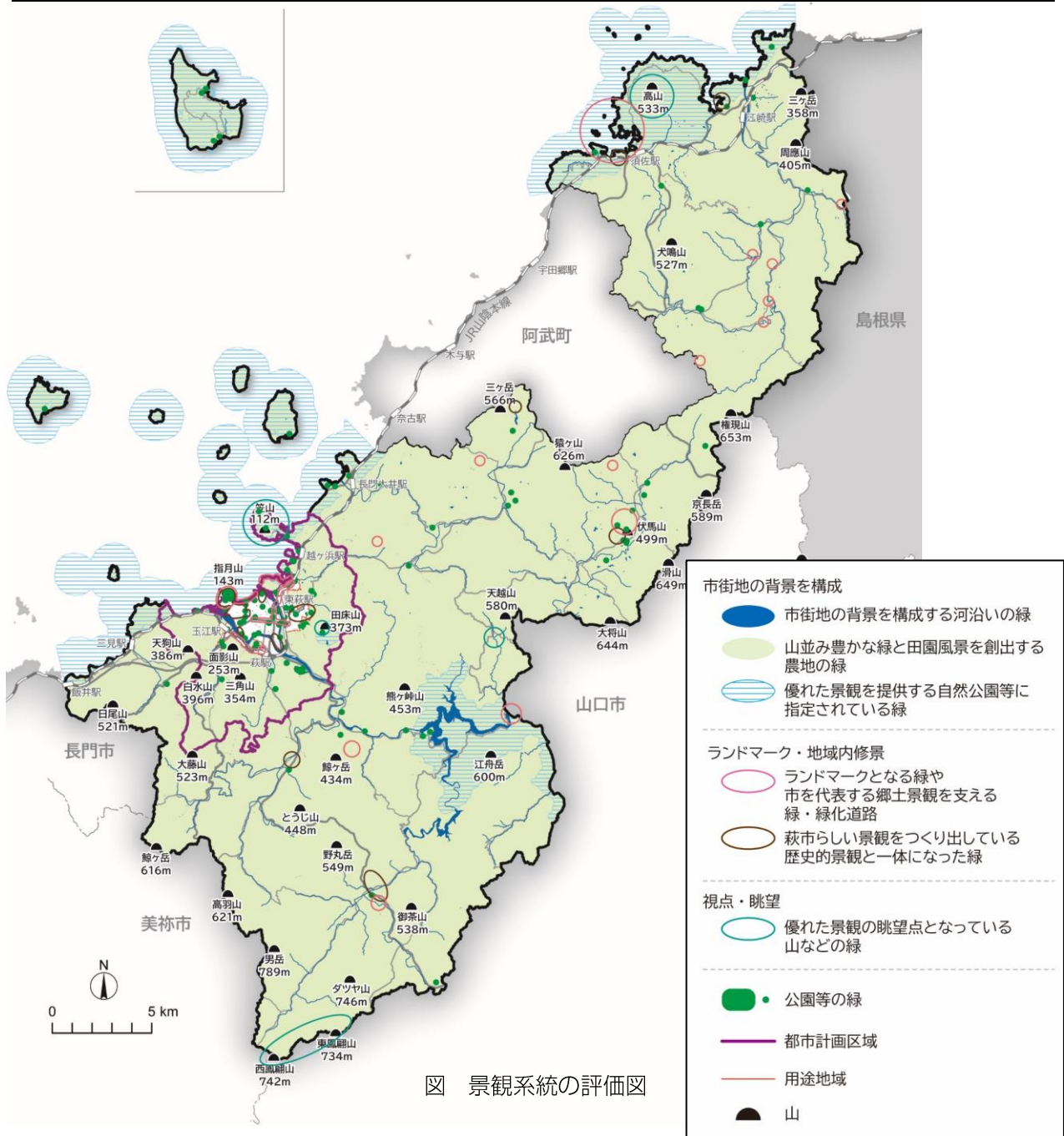


図 景観系統の評価図

1 緑の系統別課題整理

緑の役割・機能別に見た解析・評価を踏まえながら、4つの系統別に、これからの萩市における緑のまちづくりを進めていくに当たっての課題整理を行います。

(1) 環境保全系統

阿武川、橋本川、松本川、田万川等の河川沿いは、良好な緑の環境空間が形成されていることから、将来にわたっての環境の維持保全が求められます。

また、市内に点在する多くの史跡・名勝・天然記念物等と一体になった緑や、伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区、都市景観形成地区、その他重点計画区域等に残された緑は地域個性を形成するとともに、生物多様性の保全や自然との共生の面から重要な緑として、生態系ネットワークの形成を図る必要があります。

一方、川内地区を中心とする中心市街地においては、市街化とともに、まとまりのある緑地・オープンスペースの確保など、環境面に配慮した整備が必要となっています。

また、市街地を囲む山地や耕作放棄地を含む農地を活用して、より良好な市街地環境について検討していくことも必要です。

このため、固有資源の河川や水辺空間の活用、歴史的資源と結びついた緑の保全と活用など、都市化の進展に対応した緑の空間確保のあり方等についての検討が求められます。

(2) レクリエーション系統

市民が日常的に利用できる身近なレクリエーション施設である街区公園等の緑については、市民ニーズ等を踏まえながら現状で未開設になっている公園の早期整備をはじめ、機能を補完する小規模緑地の整備や公園を活用したイベント・マルシェの開催等、活用を進めていく必要があります。

また、広域的なレクリエーション要素を持った緑としては、指月公園や中央公園、陶芸の村公園などの大規模公園のほか、田床山いこいの広場や農山村地域のグラウンド・キャンプ場など、市街地に近接した優れたレクリエーション資源が点在していますが、今後の施設充実や機能複合化等、より多くの市民が利用できる環境づくりが求められます。

また、郊外のハイキングコース等ではありますが、市街地内のレクリエーション施設、都市公園などの各拠点を結ぶネットワークが未熟であることから、自転車道ネットワーク、ウォーキングトレイルなどの、安全で快適な緑豊かなネットワークの形成が必要です。

(3) 防災系統

防災系統については、既成市街地において、住宅・商店などの密集度合いも高いことから、街区公園等の小規模公園の整備や空地の活用等によるオープンスペースを確保する必要があります。

また、災害時の活動拠点となる大規模公園として、指月公園や中央公園、陶芸の村公園、萩ウェルネスパーク等の防災機能の充実が必要です。

一方、火災時の延焼遮断帯となり、騒音や大気汚染、木造密集市街地などの都市火災を防ぐ緑として、市街地内の道路緑化の促進、河川沿いの緑の保全・活用等に積極的に取り組む必要があります。特に、立地適正化計画において誘導区域として位置づけのある区域については、防災機能の強化を意識した市街地の更新を行う必要があります。

また、地域防災計画における避難場所として指定されている教育施設のグラウンド、コミュニティセンター、公民館等については、避難路となる道路の緑によるネットワーク形成を含め、施設の機能の維持・活用を進めていくことが求められます。

(4) 景観系統

景観系統については、「萩市景観計画」における各地区の景観形成基準により、良好な景観形成に努めてきましたが、今後、更に緑豊かな景観づくりを推進していくことが求められます。

橋本川や松本川には、地域住民（町内会）管理による川岸にサクラやマツが生い茂り、美しい並木になっているところがありますが、現況では今後は、ネットワーク形成とともに良好な景観づくりを行う必要があります。

また、市街地内の緑のネットワークを形成する道路沿いの緑については、マツやラカンマキ、ツバキなど特徴ある街路樹が植栽されていますが、ボリュームのある緑は、ビルなどを高木樹木でカモフラージュすることとなります。周囲が緑の萩市はあえて空間を緑で隠さない樹木を取り入れ、萩らしさを演出する中景の街路樹整備を進めるとともに、道路沿いの民有地への生垣の設置奨励や、萩らしい景観を生み出している社寺林や夏みかん畑による市街地内の緑の保全等により、花と緑のまちなみ形成を推進していくことが重要です。

特に、駅周辺や市役所等の公共施設周辺は、まちのイメージを代表する場所でもあり、緑豊かなまちなみの形成について検討が求められます。

2 都市づくりの観点から見た緑の課題整理

萩市を都市としての魅力を高めていくため、緑のあるべき姿を想定すると、緑の課題については以下のように整理できます。

歴史と文化が織りなす緑の保全と活用

萩市を構成する緑のうち、最も特徴的なものが、萩の歴史的建造物と周囲を取り巻く緑です。

これらは、萩市らしさを形づくるとともに、市域の保全や豊かな自然景観などの面で大きな役割を果たしており、萩市にとって貴重な緑資源です。

こうした環境は、規制などによって保全を図るとともに、自然とのふれあいの場として、また市民の憩いの場として活かしていく仕組みづくりが必要です。

また、市街地内においても、公園の適切な管理や緑地協定などの仕組みづくり、市民などによる関連団体等の育成、市民の緑に対する意識啓発など、ソフト面も含めた総合的な取組により、萩らしい歴史と文化を感じさせる緑を保全するとともに、地域の自然植生を活かした植栽や空地を活用した緑化など、新たな緑を創り出していくことが重要な課題です。

自然と共生するエコロジカルネットワークづくり

萩市は、日本海と中国山地に囲まれ、阿武川の下流に形成された三角州を中心に発展したまちであり、市街地が海・山・川といった豊かな自然資源に囲まれています。

また、周辺の緑資源には、名勝や天然記念物に指定されている緑など、歴史的・文化的に価値の高い貴重な緑資源も多く残されています。

こうした市街地外縁付近の緑を保全・活用し、連続性のある豊かな緑の環境づくりを進めるため、市街地の緑を点から線・面へと充実させていくことが課題となります。

そのため、拠点性を持った都市公園をバランスよく配置・整備していくことはもちろんのこと、これらを結び、緑の連続性をもたらすような、河川沿いの緑の保全と創出、道路の緑化などグリーンインフラ整備、また市街地に野生生物の生育場所ともなるエコロジカルネットワークをきめ細かく形成し、生物多様性を保全するための海岸、砂地、河川、里山など、これらを守り育てていくことが重要です。



人びとが楽しみ、癒（いや）される緑の環境づくり

近年、働き方改革などの推進による自由時間の増大などに伴い、市民の余暇活動が活発化していると同時に、多様化してきています。

こうしたニーズに的確に対応して、市民が萩市内で楽しめる場や時間を増やしていくことは、ふるさと意識の醸成や、にぎわい・楽しみのあるまちづくりを行ううえで、非常に重要なテーマでもあります。



緑は、このような市民のレクリエーション需要に応える代表的な空間となる他、自然とのふれあいの場として機能するため、地域のコミュニティ活動やイベントやマルシェ等による交流の場、高齢者や子どもの身近なレクリエーションの場として、市民の日常生活に必要な緑をもっと増やしていく必要があります。

3 見直しへのアプローチ

これまで実施されている緑の基本方針等の施策を継承していきながら、次の4つの事項に配慮して見直しを行います。

豊かな自然を守り、維持し、未来へつなげる

将来、子どもたちが今と同じ風景を見ることができるよう市の基礎を形成する自然を維持・保全していきます。

歴史が生きづく緑を活用する

優れた歴史とそこにある森などの緑の大切さを市民の学びに活用していきます。

生物多様性に配慮した緑化を推進する

「日常的な暮らしの中で身近な動植物とのふれあいの場と機会の確保」などの施策を推進していきます。

緑による持続可能なまちづくりに取り組む

現在の社会情勢に順応するように自然環境や景観、レクリエーション、防災等に配慮した持続するまちの整備に緑の持つ力（ちから）を利用していきます。